

様式第7号ア（認定を受けようとする課程を有する大学・学科等における教員養成の目標等に関する書類）

（１）大学・学科の設置理念

①大学

本学は「全人教育」をもって教育理念とし、広い教養と深い専門性のある学術理論及び応用を教授する組織である。人間形成における価値観を、真理を探究する学問観「真」・言動の善悪を判断する道徳観「善」・芸術や文化の美しさを探究する意識「美」・生命や自然、目に見えない精神性に敬畏をもつ宗教観としての「聖」・生活の手段となる「健」と「富」を教育の核におき、品格のある日本人の育成を目指す。また、時代の求める国際性、民主性を備え、自然環境を踏まえた行動を、先進的な視点、先導的な資質を持って社会貢献のできる人材を輩出することも目的としている。こうした２つの側面を持ち合わせることは２１世紀社会に呼応した教育・研究活動であり、これらに挑戦することにより人類の幸福と世界の文化の進展に寄与するものとする。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

＜文学部英語教育学科＞

文学部は、全人教育の理念のもと、国際社会の一員として社会に貢献できる言語運用能力と言語技術、および論理的思考力と柔軟な対応力を備えた人材養成を目指している。そのため、言語・文化に関する専門的知識、言語運用能力（日本語・英語）、論理的思考力というグローバル社会が求める基礎力を育成するための学科構成およびカリキュラム編成を行っている。

英語教育学科は、「英語教員養成コース」と「ＥＬＦコミュニケーションコース」の２領域で構成され、グローバル化に伴う言語や文化の多様化に対応できる資質・能力を育成することを目指し、国際コミュニケーションのための英語運用能力を身につけることを共通目標としている。「英語教員養成コース」では、英語教員に求められる豊かな言語観・文化観と指導力を、「ＥＬＦコミュニケーションコース」では、国際共通語としての英語コミュニケーション能力を育成し、積極的に国際社会に貢献することのできる人材を養成する。

＜農学部生産農学科＞

農学部は、これからの日本に求められる国際競争力の維持・向上、活力ある地域社会の構築という重要課題に「農学」という「食」「環境」「健康」に直結する学問領域を通じて、果敢に取り組み、問題を発見・解決する意欲と実行力のある人材の養成を目的とする。実物教育、総合的・学際的視点、国際性、倫理観の４つを重視する教育・研究を展開し、「生産農学」「環境農学」、「先端食農」という広い視野で農学全般を捉えることを特色とする。これらを通じ、科学の基本である「なぜ？」という鋭い視点を持つ知的好奇心旺盛な人材育成を達成する。

生産農学科は、あらゆる生物を人間生活の貴重な「資源」としてとらえ、生物の持つ機能や特性を分子から個体の視点で追究できる人材の養成を行う。具体的には、有用微生物や有用天然物の探索、遺伝子組換え・昆虫の飼育・植物の栽培など理論と技術を学修後、新機能の開発に結びつく研究を進める。これらの学修を通じて「生命の尊厳」・「他の生物との共存」などの倫理観を培い、食と農の安全安心に貢献できる人材育成を目指す。また、生産農学科は教員を養成するプログラムを設けており、中学・高等学校（理科）及び高等学校（農業）教員を育成する。

＜工学部情報通信工学科＞

工学部では全人教育のもと、人間力を備えたモノづくりの実践的技術者を育成することをミッションとしている。教育研究に取り組む学部の基本的なスタンスとして、「技術者は、技術の進歩を追求する技術者である前に、人間であることを希求すること」「失敗を恐れず人生の開拓者として絶えず夢に挑戦する技術者であること」「現状の正しい認識の上に、常に将来を見据えた前向きな姿勢で迅速な改革に取り組むこと」を前提に実技教育、労作教育を展開する。また自然尊重、地球環境に留意し環境教育を実践する。その結果、社会人として十分な品格を持った人間性豊かで、コミュニケーション力、問題発見・解決能力を備え、環境にも配慮した新たな価値を創造できる技術者の育成に努める。

情報通信工学科では、人と人をつなぐコミュニケーション能力と技術を身につけ、現代のグローバルな情報化社会で活躍できる正しい倫理観をもつ人材を育成する。特に、社会におけるさまざまな物やシステムの情報制御技術、対人サービスのための知能ロボット、クラウドコンピューティングにおけるビッグデータ解析などのデータサイエンス、情報セキュリティーおよび高速通信技術といった、時代に即した技術イノベーションの基礎を学ぶ。

〈工学部ソフトウェアサイエンス学科〉

ソフトウェアサイエンス学科では、現代社会のインフラストラクチャーとして、生活に不可欠なコンピュータやネットワークを支えるソフトウェア技術を習得した高度情報社会を支える技術者を育成する。教育目標は、ソフトウェア技術およびこれによって実現している身近な携帯電話、ゲーム機、デジカメ、ビデオ、家電製品、自動車などのさまざまな技術を、総合的に修得し、健全な技術として発展させられる見識を持った全人的技術者を育成することにある。

〈工学部マネジメントサイエンス学科〉

マネジメントサイエンス学科では、教育目標として科学的なアプローチを中心に激変する企業経営に対応できる人材育成を目指している。さらに実践的な経営者・技術者として必要な倫理観を備えた人材の育成、問題発見能力、問題解決能力、評価能力を備える人材の育成を目指している。また社会が求める新たな価値創造のできる実践的な経営者・管理者・技術者の知識が獲得できるように教育プロセスの改善を教員が推進する。

〈工学部デザインサイエンス学科〉

デザインサイエンス学科では、解が一つに定まらない社会の課題に対し、機械工学分野を中心とした科学、技術を活用して、実現可能な解を見つけることができる「デザイン能力」を有する技術者の育成を目的とする。物理学や数学のような自然科学および人間中心の社会を実現する工学に関する学問と、様々な社会科学・人文科学の知識・技術を融合し、社会の一員として地球環境・人類にとって有益となる社会の仕組みや製品を科学的な視点によって生み出すことができる人材を育成する。

情報通信工学科、ソフトウェアサイエンス学科、マネジメントサイエンス学科、デザインサイエンス学科は、数学教員養成プログラムを持ち、1年次から数学を専門として学び、数学の深い知識と幅広い教授法を身につけた数学教員を養成する。

（２）教員養成の目標・計画

①大学

本学は、建学以来、真・善・美・聖・健・富の6つの価値を調和的に創造することを目指す「全人教育」を教育理念の中心とし、幼稚園児から大学生に至るまで、この理想の人間形成を目指して教育活動を展開している。この「全人教育」こそが、教員養成、教師教育の理想であると位置づけ、下記の本学が目指す「教師像」を実践できる教員の養成を目指している。「全人教育」の理念及び本学が目指す「教師像」を実践でき、かつ、教育に係わる今日的課題に対して的確に対応できる教員を養成すること、及び、これらの優れた資質を持つ教員の養成を通して社会に貢献することが、本学の教員養成に対する基本方針である。

《本学が目指す「教師像」》

本学は、玉川教師訓「子供に慕われ、親たちに敬われ、同僚に愛せられ、校長に信ぜられよ」を実践できる教師の育成を目指す。そのために、次の力量を備えた教師を育成する。

1. 確かな学力と健やかな体を育てる「学習指導力」
2. 豊かな心を育て自己実現を図る「幼児・児童・生徒指導力」
3. とともに高めあうクラスをつくる「学級経営力」
4. 新たな学校づくりを推進する「協働力」

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

各学科の教職課程では本学の教員養成の実績を背景に、学科の設置理念に基づき創造性豊かな実践的指導力を備えた、中・高教員の養成を目的とし、今回の申請課程である小学校教育コース、各中高教科教育コースのカリキュラムを学則教育課程表に定めている。学科科目として教科に関する専門的事項の他、認定課程である英語に関連する科目も開設している。本学科では全学教職科目である教育原理をはじめとして教職課程の科目は全て卒業単位として認定しており、教育実習や教職実践演習も例外ではない。1年次から4年次の全年次を通じて学科必修科目は体系づけられ、各年次で履修できるようなカリキュラムとなっている。更に単位の実質化を目的として半期で履修可能な合計単位を16単位に制限するCAP制を導入。その中には教職関連科目も含まれ、教職課程の質向上に努めている。免許状の取得を目的とする学生の推奨履修モデルについては

様式第7号ウに具体的な履修カリキュラムとして示している。小学校教育コースは小中免許の併有を推奨する方針に基づき、中高課程を学んでいる学生が在学中に小学校免許を取得できるよう履修モデルを編成している。また、学校現場で必要な実践的指導力を身につけ、保護者対応他地域との対応力も修得し、小学校から中学校に接続するにあたって専門教科に強い小学校教員を養成する。

＜文学部英語教育学科＞

英語教育学科では人材養成の目標を達成するために、英語学の分野と教育学の分野に関する幅広い知識や技能を修得させる。具体的には、教職教養科目や教科（英語）に関する専門科目の教育を通して、次のような能力を身につけさせる。

1. 英語の分野に関する幅広い知識と技能を修得させる。
2. 教育の原理や教育の方法・技術など教育に関する幅広い知識を修得させる。
3. 学校教育や社会教育の現場等での課題を発見し、それを解決できる力を修得させる。
4. 学校教育や社会教育の現場等で必要な実践的指導力を修得させる。
5. 9か月間の海外留学プログラムを体験し、海外での多様な体験を通して異文化への理解を深め、グローバル化の時代に柔軟に対応できる力を修得できる。

小学校教育コースは、小中免許の併有を推奨する方針のため、中高英語課程を専門に学んでいる学生が在学中に小学校免許を取得できるよう履修モデルを編成している。また、学校現場で必要な実践的指導力を身につけ、保護者対応他地域との対応力も修得し、小学校から中学校に接続するにあたって外国語に強い小学校教員を養成する。

＜農学部生産農学科＞

理科教育コースは、あらゆる生物を人間生活の貴重な「資源」としてとらえ、生物資源を有効利用するために必要な自然科学の情報を収集・分析・理解し、正しく活用すること、農学に関連する専門的知識や理論を体系的に修得・理解し、関連産業の持続可能な発展や環境保全に応用できることなどを人材養成の目標に掲げている。

そのなかで、理科教育コースでは、実験・実習を通して技術と理論を修得することを人材養成の目標とし、教職教養科目や教科（理科）に関する専門科目の教育を通して、次のような能力を身につけさせる。

1. 理科の分野に関する幅広い知識と技能を修得させる。
2. 教育の原理や教育の方法・技術など教育に関する幅広い知識を修得させる。
3. 学校教育や社会教育の現場等での課題を発見し、それを解決できる力を修得させる。
4. 学校教育や社会教育の現場等で必要な実践的指導力を修得させる。

農業教育コースは、農学に関連する専門的な知識や理論を体系的に修得・理解し、関連産業の持続可能な発展や環境保全に応用できることを人材養成の目標の一つに掲げている。また、農学の学びに基づいて協調性や倫理観を身につけ、社会に貢献できることを人材養成の目標とする。そのため、農業科の教員養成課程では、教職教養科目や教科（農業）に関する専門科目の教育を通して、次のような能力を身につけさせる。

1. 農業の分野に関する幅広い知識と技能を修得させる。
2. 教育の原理や教育の方法・技術など教育に関する幅広い知識を修得させる。
3. 学校教育や社会教育の現場等での課題を発見し、それを解決できる力を修得させる。
4. 学校教育や社会教育の現場等で必要な実践的指導力を修得させる。

小学校教育コースは、小中免許の併有を推奨する方針のため、中高数学課程を専門に学んでいる学生が在学中に小学校免許を取得できるよう履修モデルを編成している。また、学校現場で必要な実践的指導力を身につけ、保護者対応他地域との対応力も修得し、小学校から中学校に接続するにあたって理科に強い小学校教員を養成する。

＜工学部＞

＜情報通信工学科＞

数学教育コースでは、人材養成の目標を達成するために数学、情報通信工学、教育の各分野に関する幅広い知識や技能を修得させる。そのため、数学科の教員養成課程では、具体的には、教職教養科目、教科（数学）に関する専門科目、学科専

門科目の教育を通して、次のような能力を身につけさせる。

1. 数学の分野に関する幅広い知識と技能を修得させる。
2. 情報通信工学の学修を通じて数学を応用する力を修得させる。
3. 教育の原理や教育の方法・技術など教育に関する幅広い知識を修得させる。
4. 学校教育や社会教育の現場等での課題を発見し、それを解決できる力を修得させる。
5. 学校教育や社会教育の現場等で必要な実践的指導力を修得させる。

工業教育コースでは、人材養成の目標を達成するために、情報通信工学の分野と教育の分野に関する幅広い知識や技能を修得させる。そのため、工業科の教員養成課程では、教職教養科目や教科（工業）に関する専門科目、学科専門科目の教育を通して、次のような能力を身につけさせる。

1. 工業の分野に関する幅広い知識と技能を修得させる。
2. 教育の原理や教育の方法・技術など教育に関する幅広い知識を修得させる。
3. 学校教育や社会教育の現場等での課題を発見し、それを解決できる力を修得させる。
4. 学校教育や社会教育の現場等で必要な実践的指導力を修得させる。小学校教育コースは、小中免許の併有を推奨する方針のため、中高数学課程を専門に学んでいる学生が在学中に小学校免許を取得できるよう履修モデルを編成しており、学校現場で必要な実践的指導力を身につけ、保護者対応他地域との対応力も修得し、小学校から中学校に接続するにあたって算数に強い小学校教員を養成する。

<工学部ソフトウェアサイエンス学科>

数学教育コースでは、人材養成の目標を達成するために数学、情報通信工学、教育の各分野に関する幅広い知識や技能を修得させる。そのため、数学科の教員養成課程では、具体的には、教職教養科目、教科（数学）に関する専門科目、学科専門科目の教育を通して、次のような能力を身につけさせる。

1. 数学の分野に関する幅広い知識と技能を修得させる。
2. 情報通信工学の学修を通じて数学を応用する力を修得させる。
3. 教育の原理や教育の方法・技術など教育に関する幅広い知識を修得させる。
4. 学校教育や社会教育の現場等での課題を発見し、それを解決できる力を修得させる。
5. 学校教育や社会教育の現場等で必要な実践的指導力を修得させる。

情報教育コースでは、人材養成の目標を達成するために情報通信工学、教育の各分野に関する幅広い知識や技能を修得させる。そのため、情報科の教員養成課程では、具体的には、教職教養科目、教科（情報）に関する専門科目、学科専門科目の教育を通して、次のような能力を身につけさせる。

1. 情報の分野に関する幅広い知識と技能を修得させる。
2. 教育の原理や教育の方法・技術など教育に関する幅広い知識を修得させる。
3. 学校教育や社会教育の現場等での課題を発見し、それを解決できる力を修得させる。
4. 学校教育や社会教育の現場等で必要な実践的指導力を修得させる。

小学校教育コースは、小中免許の併有を推奨する方針のため、中高数学課程を専門に学んでいる学生が在学中に小学校免許を取得できるよう履修モデルを編成している。また、学校現場で必要な実践的指導力を身につけ、保護者対応他地域との対応力も修得し、小学校から中学校に接続するにあたって算数に強い小学校教員を養成する。

<工学部マネジメントサイエンス学科>

学科の設置理念に基づき、本学の教員養成の実績を背景に、分析能力とプロジェクト運営能力に裏づけされた創造性豊かで実践的な数学の指導ができる力を持つ中学校・高等学校教員（数学）の養成を目的としている。

数学教育コースでは、人材養成の目標を達成するために数学、情報通信工学、教育の各分野に関する幅広い知識や技能を修得させる。そのため、数学科の教員養成課程では、具体的には、教職教養科目、教科（数学）に関する専門科目、学科専門科目の教育を通して、次のような能力を身につけさせる。

1. 数学の分野に関する幅広い知識と技能を修得させる。

2. マネジメントサイエンス、データサイエンスの学修を通じて数学を応用する力を修得させる。
3. 教育の原理や教育の方法・技術など教育に関する幅広い知識を修得させる。
4. 学校教育や社会教育の現場等での課題を発見し、それを解決できる力を修得させる。
5. 学校教育や社会教育の現場等で必要な実践的指導力を修得させる。

小学校教育コースは、小中免許の併有を推奨する方針のため、中高数学課程を専門に学んでいる学生が在学中に小学校免許を取得できるよう履修モデルを編成している。また、学校現場で必要な実践的指導力を修得させ、保護者対応他地域との対応力も修得でき、小学校から中学校に接続するにあたって算数に強い小学校教員を養成する。

<工学部デザインサイエンス学科>

学科の設置理念に基づき、本学の教員養成の実績を背景に、デザイン能力に裏づけされた創造性豊かで実践的な数学の指導ができる力を持つ中学校・高等学校教員（数学）、現代の技術や製品のデザインに関する知識と技能に基づき工業教育を先導できる力を持つ高等学校教員（工業）及び中学校教員（技術）の養成を目的としている。

数学教育コースでは、人材養成の目標を達成するために数学、プロダクトデザイン、ロボットデザイン、環境デザイン、教育の各分野に関する幅広い知識や技能を修得させる。そのため、数学科の教員養成課程では、具体的には、教職教養科目、教科（数学）に関する専門科目、学科専門科目の教育を通して、次のような能力を身につけさせる。

6. 数学の分野に関する幅広い知識と技能を修得させる。
7. プロダクトデザイン、ロボットデザイン、環境デザインの学修を通じて数学を応用する力を修得させる。
8. 教育の原理や教育の方法・技術など教育に関する幅広い知識を修得させる。
9. 学校教育や社会教育の現場等での課題を発見し、それを解決できる力を修得させる。
10. 学校教育や社会教育の現場等で必要な実践的指導力を修得させる。

技術教育コースでは、人材養成の目標を達成するために、プロダクトデザイン、ロボットデザイン、環境デザインの各分野と教育の分野に関する幅広い知識や技能を修得させる。そのため、技術科の教員養成課程では、教職教養科目や教科（技術）に関する専門科目、学科専門科目の教育を通して、次のような能力を身につけさせる。

1. 工業の分野に関する幅広い知識と技能を修得させる。
2. 教育の原理や教育の方法・技術など教育に関する幅広い知識を修得させる。
3. 学校教育や社会教育の現場等での課題を発見し、それを解決できる力を修得させる。

工業教育コースでは、人材養成の目標を達成するために、プロダクトデザイン、ロボットデザイン、環境デザインの各分野と教育の分野に関する幅広い知識や技能を修得させる。そのため、工業科の教員養成課程では、教職教養科目や教科（工業）に関する専門科目、学科専門科目の教育を通して、次のような能力を身につけさせる。

1. 工業の分野に関する幅広い知識と技能を修得させる。
2. 教育の原理や教育の方法・技術など教育に関する幅広い知識を修得させる。
3. 学校教育や社会教育の現場等での課題を発見し、それを解決できる力を修得させる。
4. 学校教育や社会教育の現場等で必要な実践的指導力を修得させる。

小学校教育コースは、小中免許の併有を推奨する方針のため、中高数学課程を専門に学んでいる学生が在学中に小学校免許を取得できるよう履修モデルを編成している。また、学校現場で必要な実践的指導力を修得させ、保護者対応他地域との対応力も修得でき、算数に強い小学校教員を養成する。

（３）認定を受けようとする課程の設置趣旨（学科等ごとに校種・免許教科別に記載）

<文学部英語教育学科>

グローバル化や情報通信技術の進展、少子高齢化など社会の急激な変化に伴い、先行きが不透明な社会に移行しつつある現代においては、国際感覚や英語運用力、問題解決力などを有する先導的指導者が必要となっている。英語教育学科では、9か月間の海外留学プログラムや問題解決型・プロジェクト型の賛同・参加型の学修、バイリンガルプログラムなどを設置し、国際社会の共通言語としての英語運用能力を身につけると共に、国際感覚・行動力を身につけた教員を養成するために、中一種

（英語）・高一種（英語）での教職課程を設置している。

この度の教職課程認定基準の改正に伴う「専科指導優先実施教科に対応した特例」設置に伴い、これまでの各自治体との教育実習協議会他、地域における教員養成の要望などをふまえ、認定課程である中高免許に加え、小学校二種免許の教職課程を申請する。

＜農学部生産農学科＞

少子高齢化が進む日本では、国民全体の科学技術リテラシーの向上を図るとともに、新たな知の創造を担う研究者や科学技術を戦略的に活用できる人材の養成が求められている。その一方で、初等教育ならびに中等教育における児童や生徒の理科や科学に対する興味・関心・学力の低下も進み、いわゆる「理科離れ」が問題となっている。生産農学科では、「自然科学を学んで、理科や農業科を教える」という考えに基づき、自然科学の幅広い知識を身につけた教員の養成を目指している。また、実験や実習を通して自らの身体を使って学び、生徒に理科や科学、あるいは農業の面白さや大切さを伝え、生徒と感動を共有することのできる優れた教員の育成を目的として、中学校・高等学校（理科教育コース）では中一種（理科）及び高一種（理科）、高等学校（農業教育コース）では高一種（農業）の教職課程を設置している。

この度の教職課程認定基準の改正に伴う「専科指導優先実施教科に対応した特例」設置に伴い、これまでの各自治体との教育実習協議会他、地域における教員養成の要望などをふまえ、認定課程である中高免許に加え、小学校二種免許の教職課程を申請する。

＜工学部情報通信工学科＞

高度情報化が急激に進み、クラウドコンピューティング、ビッグデータ解析、IoTのような新しい概念をもとに社会が大きく変化しようとしている現代においては、情報通信に関する幅広い知識と技能を身につけた指導者が必要となっている。情報通信工学科では数学に関する基礎教育を徹底的に行う他、プログラミングや電気回路の講義、組込みシステムに関する実験などを必修科目として設置し情報通信技術の基礎を身につけることができる。更に卒業プロジェクトを通じて最先端の情報通信技術に触れることができる。このような幅広い情報通信技術を身につけた教員を養成するために、中学校・高等学校（数学教育コース）では中一種（数学）及び高一種（数学）、高等学校（工業教育コース）では高一種（工業）での教職課程を設置している。

この度の教職課程認定基準の改正に伴う「専科指導優先実施教科に対応した特例」設置に伴い、これまでの各自治体との教育実習協議会他、地域における教員養成の要望などをふまえ、認定課程である中高免許に加え、小学校二種免許の教職課程を申請する。

＜工学部ソフトウェアサイエンス学科＞

コンピュータやネットワークは、社会の基盤システムを構成して生活のあらゆる場面を支えている。このような社会においては、初等教育からプログラミング言語やデジタルスキル、ソフトウェアなどを効果的に活用できる指導者が必要となっている。ソフトウェアサイエンス学科では数学に関する基礎教育はもちろんのこと、アプリケーション開発やモバイルシステム、情報セキュリティ、ネットワーク技術、ゲームやコンテンツ関連技術など、進化し続ける情報社会を支えるソフトウェアサイエンスを総合的に修得することができる。このようなソフトウェアに関する幅広い技術を身につけた教員を養成するために、中学校・高等学校（数学教育コース）では中一種（数学）及び高一種（数学）、高等学校（情報教育コース）では高一種（情報）での教職課程を設置している。

この度の教職課程認定基準の改正に伴う「専科指導優先実施教科に対応した特例」設置に伴い、これまでの各自治体との教育実習協議会他、地域における教員養成の要望などをふまえ、認定課程である中高免許に加え、小学校二種免許の教職課程を申請する。

＜工学部マネジメントサイエンス学科＞

多様性と急速な技術革新が進む現代社会において、企業や組織が抱える課題は複雑化しており、社会全体でこれらの課題に果敢に取り組むためには幅広い視野と深い専門性を備え、さらにリーダーシップを持つ人材が必要となっている。マネジメントサイエンス学科では数学に関する専門性に加え、科学や技術が社会に及ぼす影響と、技術者・経営者・教員が社会に対して負っている責任と倫理を理解し、科学や技術を的確に応用して問題解決に対処する能力を身につけた教員を養成するために、中学校・高等学校（数学教育コース）では中一種（数学）及び高一種（数学）の教職課程を設置している。

この度の教職課程認定基準の改正に伴う「専科指導優先実施教科に対応した特例」設置に伴い、これまでの各自治体との教育実習協議会他、地域における教員養成の要望などをふまえ、認定課程である中高免許に加え、小学校二種免許の教職課程を申請する。

＜工学部デザインサイエンス学科＞

急激かつ複雑に変化する先行き不透明な現代では、解が一つに定まることはない。このような社会においては、さまざまな事象を科学的・社会的に分析することによって社会の一員として解決すべき課題を発見し、科学・技術と多様な学問の融合により最適な解を見つけることができるデザイン能力を身につけた指導者が必要となっている。

デザインサイエンス学科では数学に関する基礎教育はもちろんのこと、プロダクトデザイン、ロボットデザイン、環境デザインに関する講義や実験の科目を設置し、科学・技術を活用した社会課題の解決に取り組む基礎能力を身につけることができる。このような幅広いデザイン能力を身につけた教員を養成するために、中・高（数学教育コース）では中一種（数学）及び高一種（数学）、中学校（技術教育コース）では中一種（技術）、高等学校（工業教育コース）では高一種（工業）での教職課程を設置している。

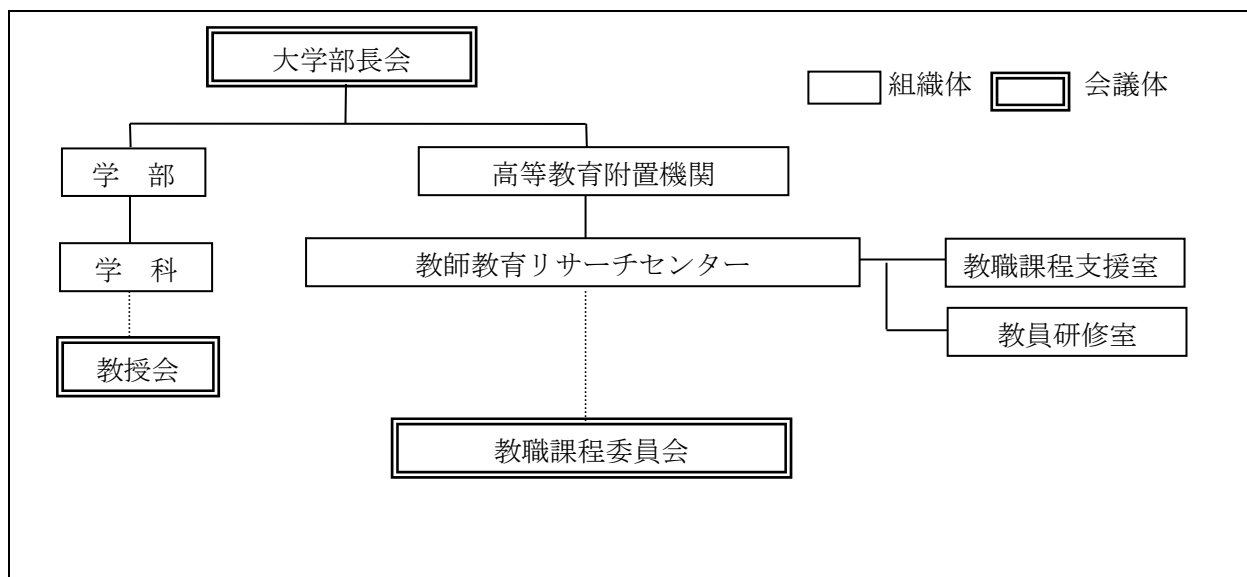
この度の教職課程認定基準の改正に伴う「専科指導優先実施教科に対応した特例」設置に伴い、これまでの各自治体との教育実習協議会他、地域における教員養成の要望などをふまえ、認定課程である中高免許に加え、小学校二種免許の教職課程を申請する。

I. 教職課程の運営に係る全学的組織及び各学科等の組織の状況

(1) 各組織の概要

組織名称：	教師教育リサーチセンター
目 的：	教師教育リサーチセンターは、大学附置機関として教職に関する専門的研究を行い、国内外の諸研究・教育機関等と連携を密にし、本学における教員養成等の充実を図ることを目的とする。さらに研究活動の成果を生かして、本学に共通する教育職員免許状・資格の取得支援、教職に係る就職支援を推進することを目的とする。
責 任 者：	教師教育リサーチセンター長
構成員（役職・人数）：	教師教育リサーチセンター長 1名 教師教育リサーチセンター 教職課程支援室課長 2名 教師教育リサーチセンター 教職課程支援室課長補佐 4名 教師教育リサーチセンター 教職課程支援室係長 3名 教師教育リサーチセンター 教職課程支援室主任 1名 教師教育リサーチセンター 教職課程支援室係員 2名 教師教育リサーチセンター 教員研修室課長 1名 教師教育リサーチセンター 教員研修室課長補佐 1名 教師教育リサーチセンター 嘱託職員／派遣／パート 9名
運営方法：	教職課程支援室と教員研修室の2課体制で、下記の業務を分担し運営している。 教職課程支援室：教育実習、保育実習、介護等体験、学校体験活動（インターンシップ・ボランティア）等や、教員、保育士希望の就職支援及びキャリアデザイン支援に関する業務を担当。 教員研修室：教員養成のための「教職カリキュラム研究」「教師教育に関する研究」や近隣教育委員会、教育現場との連携による現職教員を対象とした研修会等の業務を担当。 各月2回教師教育リサーチセンター会を開催し、教職課程委員会での議案を含む教職課程における現状の課題や問題の確認・報告を行っている。 また、高等教育支援機関である教学部と連携を取り、教務委員会との情報の共有を行っている。

(2) (1) で記載した個々の組織の関係図



Ⅱ. 都道府県及び市区町村教育委員会、学校、地域社会等との連携、協力に関する取組

(1) 教育委員会との人事交流・学校現場の意見聴取等

- (1) 東京都町田市・稲城市、神奈川県横浜市・川崎市・相模原市等との間で、主として教員養成に関する連携協定を締結し、教育の今日的課題に的確に対応できる専門的かつ実践的指導力を有する教員の養成・研修等に関する事業を展開している。
- (2) 東京都町田市、神奈川県横浜市・川崎市・相模原市との間では、教育実習生受入れ先の学校長及び本学教職担当教員との間で『教育実習に関する協議会』を定期的に開催し、より効果的な教育実習の在り方をはじめ、より質の高い教員養成の在り方、学校体験活動（インターンシップ、ボランティア）等について協議し、連携を強化している。
- (3) 東京都、神奈川県・横浜市・川崎市・相模原市、千葉県・千葉市、埼玉県、さいたま市、茨城県、長野県、山梨県の各教育委員会から担当官を招き、求める教師像や地域の特色、前年度教員採用選考実施状況を含めた『教員採用選考に関する学内説明会』を実施している。
- (4) かながわティーチャーズカレッジ（神奈川県）、さがみ風っ子教師塾（神奈川県相模原市）、藤沢市ティーチャーズカレッジ（神奈川県藤沢市）、よこはま教師塾アイカレッジ（神奈川県横浜市）について、各教育委員会担当官による学内説明会を実施している。
- (5) 東京教師養成塾（東京都）に関する連絡会・成果発表会並びに修了式に参加している。
大学の姿勢として、実習校に実習生を受け入れていただくだけでなく、積極的に学生たちに学校体験活動の参加を促し、要請があれば大学の教員を講師として派遣している。

(2) 学校現場における体験活動・ボランティア活動等

取組名称：	参観実習
連携先との調整方法：	大学近隣（町田市・稲城市・横浜市・川崎市・相模原市等）の公立小中学校に対して、参観実習の趣旨を説明・理解していただき、受入れ校・人数を決定している。
具体的な内容：	教職課程を受講中の1年生を対象に、教職に対する自覚を促し、教育現場への理解を深め、進路選択の機会とすることを目的として、教育学部生は6月末に、教育学部以外の学生は10月下旬に、“教える立場”で学校の1日を体験する。 単に学校を見学するだけのイベントではなく、学生が主体性と責任感をもって望むべく、教育実習と同様に、事前の指導ならびに事後の振り返りを行う。 事前の指導として、受け入れ校等の校長先生を招聘し、地域の特徴、教育内容、学校の特色、参観実習にあたって注意すべき点等の講話の受講ならびに受講生各自が教職の志望動機や参観実習での課題を明らかにする。 参観実習当日のスケジュールや内容などは、学生自らが学校側と交渉して決定する。 参観実習の当日の内容としては次の通り。 ●校長先生、教頭先生による学校紹介及び講話 ●授業の参観 ●部活動の支援 ●給食の時間や昼休みの時間を用いての児童・生徒とのふれあい ●若手教員との懇談 ●総括指導（質疑応答含む） 事後の振り返りとして、教育活動（授業他）、教師の任務、児童・生徒の様子、学校の雰囲気・環境、参観実習での学びを今後はどう生かすか等をまとめた報告書を作成する。

Ⅲ. 教職指導の状況

本学における教職指導については、①教職課程の受講に関するガイダンス、②教員採用試験対策に関する模試・講座・ガイダンスの実施、③実務家教員における相談対応の3つに大別できる。

① 教職課程受講に関するガイダンス

入学直後の4月に、本学が目指す教師像ならびに4年間における本学の教員養成や教職課程の受講手続きに関する説明を行うガイダンスを皮切りに、各年次において、介護等体験や教育実習、また、教員免許状取得に関するガイダンスを実施している。

② 教員採用試験対策に関する模試・講座・ガイダンスの実施

1年次の春に教員採用試験の状況の説明と一般教養の模擬試験を皮切りに、年に2回（春と秋）の教員採用模擬試験の実施と、論作文や面接を中心とした教員採用試験対策講座、一次試験合格者に対する二次試験対策、また、合格者体験談や教員職に就いた卒業生による講話、各教育委員会の採用担当者を招聘した説明会、教員採用候補者選考試験の傾向説明、私立教員対象ガイダンスなど、対象学年に見合った講座・ガイダンスを実施している。

③ 実務家教員（校長・園長・教育行政職経験者）における個人相談対応

随時、教育実習や教員採用試験を中心に、教職ならびに学修全般に対する個人面談を実施している。

各種相談への対応

教師教育リサーチセンターの職員が相談内容を聞き対応する。相談内容によっては、学部学科の教職担当専任教員や学生支援のために在籍している非常勤の実務家教員（29名）に相談内容を引き継ぎ、学生支援に努めている。

様式第7号ウ

＜英語教育学科＞（認定課程：小二種免）

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	第1セメスター	【教職の意義と基礎理論を学ぶ／英語科の基礎を学ぶ】 教職課程とは何かを理解し、教員の仕事・職務内容を確認することができる。小学校・中学校（公立学校）の教員職に就くためには卒業までに何をしなければならないのかを理解し、自分で計画を立てて実践することができる。参観実習を通して、教員としての目線からもう一度学校を見つめ直し、教員職が自分に向いているのか否かを確認することができる。 大学で求められるacademic Englishに慣れ、聞いたり、話したり、読んだり、書いたりすることができる。
	第2セメスター	【教職の意義と基礎理論を学ぶ／英語科の基礎を学ぶ】 「学校体験活動A」でチーム学校を体験し、学校現場での体験を教職課程の学びにつなげる。 大学で求められるacademic Englishに習熟し、正確に、聞いたり、話したり、読んだり、書いたりすることができる。
2年次	第3セメスター	【英語科教員になるための基礎を学ぶ】 介護等体験事前指導を通して、多様な人との対応力の必要性を理解し、5月～10月に実施する介護等体験の準備・心構えを培うことができる。介護等体験を通して、多様な人との対応力を実践し、教師として必要なことは何かを再発見することができる。 英語力を高めることに加えて、グローバルな視点から英語圏の文化について理解し、英語を用いて発信することができる。
	第4セメスター	【英語科教員になるための基礎を学ぶ／英語や社会、文化などについての学びを深める】 2年次第4セメスターから3年次第5セメスターにかけての1年間の海外留学プログラムにおいて、実践的な語学力を身につけ英語の運用能力を高めることができる。 異文化への理解を深めて国際感覚を身につけることができる。
3年次	第5セメスター	【英語科教員に必要な専門性と実践力を養う／英語や社会、文化などについての学びを一層深める】 2年次第4セメスターから3年次第5セメスターにかけての1年間の海外留学プログラムにおいて、実践的な語学力を身につけ英語の運用能力を高めることができる。 異文化への理解を深めて国際感覚を身につけることができる。
	第6セメスター	【指導法の基礎を学ぶ／教科・教職の専門性と実践力を養う】 教育実習事前指導を通して、中学校英語科の教材研究、授業計画や指導案作成など、教育実習に行くための準備は何か理解でき、実行できる。 事前に実習校訪問を行い、実習にスムーズに入るために必要な準備は何か理解し、そのための準備ができる。 英語科教育の内容、指導法、評価方法、学習指導要領の内容などの基礎的知識を修得し、説明できる。 英語科指導において、具体的な指導内容や方法・評価方法を想定し、学習指導案の作成や模擬授業の実施などを通して実践的な指導力を身につけ、生徒の実態や現代社会に適した指導の工夫をすることができる。 「学校体験活動B」では、教育実習へつながる実践的指導の基礎を学ぶ。
4年次	第7セメスター	【実践と応用】 実習中は常に「玉川教師訓」を意識し、礼儀やマナーを守り、生徒と積極的に交流し、指導教員を含む全ての学校教職員と協働することができる。 教育実習で指導されたことや気づいたことはしっかりと記録し、第8セメスターでの「教職実践演習」に活かすことができる。 教員採用候補者選考試験に向けて、自分の弱点を徹底的に繰り返し学習し、集中して試験勉強に臨むことができる。 これまでの学修、実習を通して身につけたことを発展させ、生徒に英語の楽しさをより効果的に体験させる授業指導案を作成し、実行することができる。
	第8セメスター	【総まとめ】 第7セメスターでの「教育実習（中学校・高等学校）」に加え、小学校での教育実習を行う「教育実習（副）」を履修する。 これまでの教職課程で学んできたことを「教職実践演習」を通して振り返り、教員として不足している己の力を確認するとともに、課題を解決するための方策を見出し、実践することができる。 これまでの学修、実習を通して身につけたことを総合的に捉えるとともに発展させ、生徒に英語の楽しさを伝えるだけでなく、英語と日々の生活との関連をはかるとともに国際社会を意識し、国際文化に親しむ態度を効果的に育めるような指導案を考え実践することができる。

様式第7号ウ（教諭）

<英語教育学科>（認定課程：小学校二種）

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	第1 セメ スター	教育原理	Basic Academic English Skills A		健康教育	
		教育方法・技術論	English Phonetics		データ処理	
		ICT活用の理論と実践			ELF Communication for Teachers	
	集中	算数科指導法				
	第2 セメ スター	教職概論	Basic Academic English Skills B		日本国憲法	World Studies
		学校体験活動A（小学校・中学校）	English Grammar		体育	
	集中	理科指導法				
		図工科指導法				
2年次	第3 セメ スター	英語科指導法 I	British and American Literature			Pre-departure Seminar
		学習・発達論				
		教育の制度と経営				
		総合的な学習の時間の理論と方法	Introduction to Language Studies			
	集中	音楽科指導法				
	第4 セメ スター					English for Intercultural Communication A
						Intercultural Communication A

3年次	第5セメスター		English in Global Contexts			English for Intercultural Communication B
			Multiculturalism in English-speaking Areas			Intercultural Communication B
						Studies in ELT
	集中	社会科指導法		School Internship A		
				School Internship B		
				School Internship C		
	第6セメスター	英語科指導法Ⅱ	Special Studies in American Literature			
		教育相談の理論と方法	Issues in English Linguistics			
		教育課程編成論	Language and Society			
		生徒・進路指導の理論と方法	Language Testing			
		道德教育の理論と方法				
		学校体験活動B(小学校・中学校)				
	集中	国語科指導法				
4年次	集中	英語科指導法Ⅲ	Teaching English to Children	教職演習A		
		特別支援教育				
		特別活動の理論と方法				
	第7セメスター	教育実習(中学校・高等学校)	英語科指導法Ⅲ			
			Issues in Second Language Acquisition			
			Issues in Applied Linguistics			
			Speaking Workshop			
			Special Studies in British Literature			
	第8セメスター	教育実習(副)	Language through Contemporary English Literature	全人教育論		Senior Project
		教職実践演習				

様式第7号ウ

<生産農学科>(認定課程:小二種免)

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	第1 セメ スター	【教職の意義を学ぶ／理科の基礎を学ぶ】 教職課程とは何かを理解し、教員の仕事・職務内容を確認することができる。小学校・中学校(公立学校)の教員職に就くためには卒業までに何をしなければならないのかを理解し、自分で計画を立てて実践することができる。 理科を理解するために必要な理論と観察や実験の基礎を身につけることができる。
	第2 セメ スター	【教職の基礎を学ぶ／理科の基礎を学ぶ】 参観実習を通して、教員としての目線からもう一度学校を見つめ直し、教員職が自分に向いているか否かを確認することができる。その後「学校体験活動A」でチーム学校を体験し、学校現場での体験を教職課程の学びにつなげる。 理科の基礎概念の正しい理解に基づく観察力、実験技術の修得ならびに現代社会における理科教育の活用について理解することができる。
2年次	第3 セメ スター	【教職の基礎を学ぶ／理科の基礎を学ぶ】 学習指導要領の理解・評価方法・学習指導方法などの基礎的知識を身につけることができる。 理科の基礎概念の正しい理解に基づく観察力、実験技術の修得ならびに現代社会における理科教育の活用について理解することができる。 介護等体験事前指導を通して、多様な人への対応力の必要性を理解し、心構えを培うことができる。
	第4 セメ スター	【理科の指導法を学ぶ／理科の基礎を学ぶ】 学習指導案の作成や模擬授業を通じて、単元の要点や学習指導の方法等、数学科の指導に必要な学習指導の技術を修得することができる。 第3セメスターに引き続き、理科の基礎概念の正しい理解に基づく観察力、実験技術の修得ならびに事象を科学的に考察する力を身につけることができる。 介護等体験を通して、多様な人への対応を実践し、教師として必要なことは何かを再発見することができる。
3年次	第5 セメ スター	【教職科目の専門性を養う／理科の専門性と応用力を養う】 教科外活動に関する理解・基礎的知識を習得し、実践することができる。 学校現場で重要視される理科的活動に対して、十分なスキルを身につけることができる
	第6 セメ スター	【教職専門科目の専門性と応用力を養う／理科の専門性と実践力を養う／学校現場における学びを行う】 教育実習事前指導を通して、理科の授業計画や学習指導案、教材研究に至るまでしっかりと教育実習に行くための準備ができる。 事前に数回の実習校訪問を行い、実習にスムーズに入れるための準備ができる。 具体的な指導内容や方法・評価方法を想定し、学習指導案の作成や模擬授業の実施などを通して実践的な指導力を身につけ、生徒の実態や現代社会に適応した指導の工夫をすることができる。 「学校体験活動B」では、教育実習へつながる実践的指導力の基礎を学ぶ。 インターンシップによる学校現場体験を通して、自らの教員としての資質能力を鑑みることができる。
4年次	第7 セメ スター	【実践と応用】 実習中は常に「玉川教師訓」を意識し、礼儀やマナーを守り、生徒と積極的に交流し、指導教員を含む全ての学校教職員と協働することができる。 また、教育実習で指導されたことや気付いたことはしっかりと記録し、第8セメスターでの教職実践演習に活かすことができる。 教員採用候補者選考試験に向けては、自分で弱点としている箇所を徹底的に繰り返し学習し、集中して試験勉強に臨むことができる。 これまでの学修、実習を通して身につけたことを発展させ、生徒に理科的活動を通してその楽しさや奥深さを実感できる教材準備ができる。
	第8 セメ スター	【総まとめ】 第7セメスターでの「教育実習(中学校・高等学校)」に加え小学校での教育実習を行う「教育実習(副)」を履修する。 これまでの教職課程で学んできたことを教職実践演習を通して振り返り、教師として不足している己の力を確認するとともに、課題を解決するための方策を見出し、実践することができる。 これまでの学修、実習を通して身につけたことを発展させ、生徒に理科的活動を通して事象を科学的に考察し表現する力やそれらを活用して考えたり判断する力を指導できるようになる。

様式第7号ウ（教諭）

<生産農学科>（認定課程：小二種免）

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
年次	時期	各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
1年次	第1セメスター	学習・発達論	基礎生物学実験		日本国憲法	化学 A
		教育原理			健康教育	生物学 A
					ELF Communication for Teachers	生物統計学 A
					データ処理	
	集中	算数科指導法				
	第2セメスター	教職概論	基礎化学実験			科学と教育
		学校体験活動B（小学校・中学校）	有機化学 A			脳と動物
			生物学 B			
			化学 B			
	集中	図工科指導法				
2年次	第3セメスター	教育方法・技術論	物理学	全人教育論		生態学
		ICT活用の理論と実践	細胞生物学			生物多様性学
		特別支援教育	分析化学			
		特別活動の理論と方法				
		理科指導法 I				
	集中	社会科指導法				
	第4セメスター	教育の制度と経営	分子生物学	生命と性の教育	体育	
		理科指導法 II	地学実験	異文化理解と教育		
			生物統計学 B			
			地学			
			物理学実験			
	集中		生化学			
		国語科指導法				
		音楽科指導法				
3年次	第5セメスター	教育相談の理論と方法				分子構造解析論
		教育課程編成論				ゲノム科学
		理科指導法 III				
	第6セメスター	道德教育の理論と方法	化学実験スキル			天然物化学
		総合的な学習の時間の理論と方法	動物行動学			
		生徒・進路指導の理論と方法				
		理科指導法 IV				
		学校体験活動B（小学校・中学校）				
	集中	外国語（英語）指導法				
4年次	第7セメスター	教育実習（中学校・高等学校）	生物実験スキル	教職演習A		
	第8セメスター	教育実習（副）				教材研究
		教職実践演習				

様式第7号ウ

＜情報通信工学科＞（認定課程：小二種免）

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	第1セメスター	【教職の意義を学ぶ／数学科の基礎を学ぶ】 教職課程とは何かを理解し、教員の仕事・職務内容を確認することができる。小学校・中学校（公立学校）の教員職に就くためには卒業までに何をしなければならないのかを理解し、自分で計画を立てて実践することができる。 大学で学ぶ数学を理解するために必要な数学概念と数学演算の基礎を身につけることができる。
	第2セメスター	【教職の基礎理論を学ぶ／数学科の基礎を学ぶ】 参観実習を通して、教員としての目線からもう一度学校を見つめ直し、教員職が自分に向いているか否かを確認することができる。その後「学校体験活動A」でチーム学校を体験し、学校現場での体験を教職課程の学びにつなげる。 数学の基礎概念の正しい理解に基づく計算力、応用力の修得ならびに高度情報通信社会における数学教育の活用について理解することができる。
2年次	第3セメスター	【教職の基礎理論を学ぶ／数学科の基礎を学ぶ】 数学科の指導に必要な学習指導要領の理解・評価方法・学習指導方法などの基礎的知識を身につけることができる。 数学の基礎概念の正しい理解に基づく計算力、応用力の修得ならびに事象を数理的に考察する力を身につけることができる。 介護等体験事前指導を通して、多様な人への対応力の必要性を理解し、心構えを培うことができる。
	第4セメスター	【指導法の基礎を学ぶ／数学科の基礎を学ぶ】 学習指導案の作成や模擬授業を通じて、単元の要点や学習指導の方法等、数学科の指導に必要な学習指導の技術を習得することができる。 第3セメスターに引き続き、数学の基礎概念の正しい理解に基づく計算力、応用力の修得ならびに事象を数理的に考察する力を身につけることができる。 介護等体験を通して、多様な人への対応を実践し、教師として必要なことは何かを再発見することができる。
3年次	第5セメスター	【教職科目の専門性を養う／数学科の専門性と応用力を養う】 教科外活動に関する理解・基礎的知識を習得し、実践することができる。 学校現場で重要視される数学的活動に対して、十分なスキルを身につけることができる。
	第6セメスター	【教科の専門性と実践力を養う／教職専門科目の専門性と応用力を養う／学校現場における学びを行う】 教育実習事前指導を通して、中学校数学の授業計画や学習指導案、教材研究に至るまでしっかりと教育実習に行くための準備ができる。 事前に数回の実習校訪問を行い、実習にスムーズに入れるための準備ができる。 数学教育において、具体的な指導内容や方法・評価方法を想定し、学習指導案の作成や模擬授業の実施などを通して実践的な指導力を身につけ、生徒の実態や現代社会に適応した指導の工夫をすることができる。 インターンシップによる学校現場体験を通して、自らの教員としての資質能力を鑑みることができる。 学校体験活動Bでは、教育実習へつながる実践的指導力の基礎を学ぶ。
4年次	第7セメスター	【実践と応用】 実習中は常に「玉川教師訓」を意識し、礼儀やマナーを守り、生徒と積極的に交流し、指導教員を含む全ての学校教職員と協働することができる。 また、教育実習で指導されたことや気付いたことはしっかりと記録し、第8セメスターでの「教職実践演習」に活かすことができる。 教員採用候補者選考試験に向けては、自分で弱点としている箇所を徹底的に繰り返し学習し、集中して試験勉強に臨むことができる。 これまでの学修、実習を通して身につけたことを発展させ、生徒に数学的活動を通してその楽しさや数学の良さを実感できる教材準備ができる。
	第8セメスター	【総まとめ】 第7セメスターでの「教育実習（中学校・高等学校）」に加え小学校での教育実習を行う「教育実習（副）」を履修する。 これまでの教職課程で学んできたことを教職実践演習を通して振り返り、教師として不足している己の力を確認するとともに、課題を解決するための方策を見出し、実践することができる。 これまでの学修、実習を通して身につけたことを発展させ、生徒に数学的活動を通して事象を数理的に考察し表現する力やそれらを活用して考えたり判断する力を指導できるようになる。

様式第7号ウ（教諭）

<情報通信工学科>（認定課程：小二種免）

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	第1セメスター	教育原理			健康教育	
					ELF Communication for Teachers	
					データ処理	
					日本国憲法	
	第2セメスター	教育方法・技術論	代数学Ⅰ		プログラミングⅠ	
		ICT活用の理論と方法	解析学Ⅰ			
		教職概論	プログラミングⅠ			
		学校体験活動A(小学校・中学校)				
2年次	第3セメスター	学習・発達論	解析学Ⅱ	全人教育論		
		総合的な学習の時間の理論と方法	微分方程式Ⅰ			
		数学科指導法Ⅰ	プログラミングⅡ			
		特別活動の理論と方法	確率統計学Ⅰ			
	集中	音楽科指導法				
			複素解析Ⅰ		体育	デジタルシチズンシップ
	第4セメスター	教育の制度と経営	微分方程式Ⅱ			
		数学科指導法Ⅱ	幾何学Ⅰ			
			確率統計学Ⅱ			
			フーリエ解析			
	集中	理科指導法				
		図工科指導法				
3年次	第5セメスター	特別支援教育	複素解析Ⅱ			応用工学演習
		教育課程編成論	数値解析プログラミング			
		数学科指導法Ⅲ	データサイエンスⅠ			
		教育相談の理論と方法	代数学Ⅱ			
	集中	社会科指導法				インターンシップⅠ
						インターンシップⅡ
						インターンシップⅢ
						インターンシップⅣ
	第6セメスター	生徒・進路指導の理論と方法	データサイエンスⅡ			レーダ工学
		道德教育の理論と方法				生体情報工学
		数学科指導法Ⅳ				
		学校体験活動B(小学校・中学校)				
	集中	国語科指導法				
		外国語(英語)指導法				
4年次	第7セメスター	教育実習(中学校・高等学校)	幾何学Ⅱ	教職演習A		光通信工学
	第8セメスター	教育実習(副)	ビッグデータ解析			量子セキュリティ
		教職実践演習				

様式第7号ウ

＜ソフトウェアサイエンス学科＞（認定課程：小二種免）

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	第1セメスター	【教職の意義を学ぶ／数学科の基礎を学ぶ】 教職課程とは何かを理解し、教員の仕事・職務内容を確認することができる。中学校（公立学校）の教員職に就くためには卒業までに何をしなければならないのかを理解し、自分で計画を立てて実践することができる。 大学で学ぶ数学を理解するために必要な数学概念と数学演算の基礎を身につけることができる。
	第2セメスター	【教職の基礎理論を学ぶ／数学科の基礎を学ぶ】 参観実習を通して、教員としての目線からもう一度学校を見つめ直し、教員職が自分に向いているか否かを確認することができる。その後「学校体験活動A」でチーム学校を体験し、学校現場での体験を教職課程の学びにつなげる。 数学の基礎概念の正しい理解に基づく計算力、応用力の修得ならびに高度情報通信社会における数学教育の活用について理解することができる。
2年次	第3セメスター	【教職の基礎理論を学ぶ／数学科の基礎を学ぶ】 数学科の指導に必要な学習指導要領の理解・評価方法・学習指導方法などの基礎的知識を身につけることができる。 数学の基礎概念の正しい理解に基づく計算力、応用力の修得ならびに事象を数理的に考察する力を身につけることができる。 介護等体験事前指導を通して、多様な人への対応力の必要性を理解し、心構えを培うことができる。
	第4セメスター	【指導法の基礎を学ぶ／数学科の基礎を学ぶ】 学習指導案の作成や模擬授業を通じて、単元の要点や学習指導の方法等、数学科の指導に必要な学習指導の技術を習得することができる。 第3セメスターに引き続き、数学の基礎概念の正しい理解に基づく計算力、応用力の修得ならびに事象を数理的に考察する力を身につけることができる。 介護等体験を通して、多様な人への対応を実践し、教師として必要なことは何かを再発見することができる。
3年次	第5セメスター	【教職科目の専門性を養う／数学科の専門性と応用力を養う】 教科外活動に関する理解・基礎的知識を習得し、実践することができる。 学校現場で重要視される数学的活動に対して、十分なスキルを身につけることができる
	第6セメスター	【教科の専門性と実践力を養う／教職専門科目の専門性と応用力を養う／学校現場における学びを行う】 教育実習事前指導を通して、中学校数学の授業計画や学習指導案、教材研究に至るまでしっかりと教育実習に行くための準備ができる。 事前に数回の実習校訪問を行い、実習にスムーズに入れるための準備ができる。 数学教育において、具体的な指導内容や方法・評価方法を想定し、学習指導案の作成や模擬授業の実施などを通して実践的な指導力を身につけ、生徒の実態や現代社会に適応した指導の工夫をすることができる。 インターンシップによる学校現場体験を通して、自らの教員としての資質能力を鑑みることができる。 学校体験活動Bでは、教育実習へつながる実践的指導力の基礎を学ぶ。
4年次	第7セメスター	【実践と応用】 実習中は常に「玉川教師訓」を意識し、礼儀やマナーを守り、生徒と積極的に交流し、指導教員を含む全ての学校教職員と協働することができる。 また、教育実習で指導されたことや気づいたことはしっかりと記録し、第8セメスターでの「教職実践演習」に活かすことができる。 教員採用候補者選考試験に向けては、自分で弱点としている箇所を徹底的に繰り返し学習し、集中して試験勉強に臨むことができる。 これまでの学修、実習を通して身につけたことを発展させ、生徒に数学的活動を通してその楽しさや数学の良さを実感できる教材準備ができる。
	第8セメスター	【総まとめ】 第7セメスターでの「教育実習（中学校・高等学校）」に加え小学校での教育実習を行う「教育実習（副）」を履修する。 これまでの教職課程で学んできたことを「教職実践演習」を通して振り返り、教師として不足している己の力を確認するとともに、課題を解決するための方策を見出し、実践することができる。 これまでの学修、実習を通して身につけたことを発展させ、生徒に数学的活動を通して事象を数理的に考察し表現する力やそれらを活用して考えたり判断する力を指導できるようになる。

様式第7号ウ（教諭）

＜ソフトウェアサイエンス学科＞（認定課程：小二種免）

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	第1セメスター		プログラミングⅠ		ELF Communication for Teachers	プログラミング実験
					情報科学入門	
					健康教育	
	第2セメスター	教職概論	プログラミングⅡ		日本国憲法	離散数学
		学校体験活動A(小学校・中学校)	代数学Ⅰ			
			解析学Ⅰ			
2年次	第3セメスター	数学科指導法Ⅰ	解析学Ⅱ	全人教育論	ネットワーク入門	シグナルプロセッシング
			確率統計学Ⅰ			ビジネスゲーム
			微分方程式Ⅰ			
			フーリエ解析			
	集中	音楽科指導法				
	第4セメスター	教育原理	微分方程式Ⅱ		体育	経営情報分析
		学習・発達論	複素解析Ⅰ			回路基礎
		教育方法・技術論	アルゴリズムとデータ構造			
		ICT活用の理論と実践	幾何学Ⅰ			
		数学科指導法Ⅱ	確率統計学Ⅱ			
	集中	理科指導法				
		図工科指導法				
3年次	第5セメスター	総合的な学習の時間の理論と方法	複素解析Ⅱ			
		数学科指導法Ⅲ				
		教育相談の理論と方法	代数学Ⅱ			
		教育課程編成論				
		特別活動の理論と方法				
	集中	社会科指導法				インターンシップⅠ
						インターンシップⅡ
						インターンシップⅢ
						インターンシップⅣ
	第6セメスター	教育の制度と経営				アルゴリズム応用
		数学科指導法Ⅳ				
		生徒・進路指導の理論と方法				
		道德教育の理論と方法				
		学校体験活動B(小学校・中学校)				
	集中	国語科指導法				
		外国語(英語)指導法				
4年次	第7セメスター	特別支援教育	数値解析プログラミング	教職演習A		情報理論
		教育実習(中学校・高等学校)	幾何学Ⅱ			
	第8セメスター	教育実習(副)		生命と性の教育		
		教職実践演習		異文化理解と教育		

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	第1 セメ スター	【教職の意義を学ぶ／数学科の基礎を学ぶ】 教職課程とは何かを理解し、教員の仕事・職務内容を確認することができる。小学校、中学校（公立学校）の教員職に就くためには卒業までに何をしなければならないのかを理解し、自分で計画を立てて実践することができる。 大学で学ぶ数学を理解するために必要な数学概念と数学演算の基礎を身につけることができる。
	第2 セメ スター	【教職の基礎理論を学ぶ／数学科の基礎を学ぶ】 参観実習を通して、教員としての目線からもう一度学校を見つめ直し、教員職が自分に向いているか否かを確認することができる。その後「学校体験活動A」でチーム学校を体験し、学校現場での体験を教職課程の学びにつなげる。 数学の基礎概念の正しい理解に基づく計算力、応用力の修得ならびに高度情報通信社会における数学教育の活用について理解することができる。
2年次	第3 セメ スター	【教職の基礎理論を学ぶ／数学科の基礎を学ぶ】 数学科の指導に必要な学習指導要領の理解・評価方法・学習指導方法などの基礎的知識を身につけることができる。 数学の基礎概念の正しい理解に基づく計算力、応用力の修得ならびに事象を数理的に考察する力を身につけることができる。 介護等体験事前指導を通して、多様な人への対応力の必要性を理解し、心構えを培うことができる。
	第4 セメ スター	【指導法の基礎を学ぶ／数学科の基礎を学ぶ】 学習指導案の作成や模擬授業を通じて、単元の要点や学習指導の方法等、数学科の指導で必要な学習指導の技術を修得することができる。 第3セメスターに引き続き、数学の基礎概念の正しい理解に基づく計算力、応用力の修得ならびに事象を数理的に考察する力を身につけることができる。 介護等体験を通して、多様な人への対応を実践し、教師として必要なことは何かを再発見することができる。
3年次	第5 セメ スター	【教職科目の専門性を養う／数学科の専門性と応用力を養う】 教科外活動に関する理解・基礎的知識を習得し、実践することができる。 学校現場で重要視される数学的活動に対して、十分なスキルを身につけることができる
	第6 セメ スター	【教科の専門性と実践力を養う／教職専門科目の専門性と応用力を養う／学校現場における学びを行う】 教育実習事前指導を通して、中学校数学の授業計画や学習指導案、教材研究に至るまでしっかりと教育実習に行くための準備ができる。 事前に数回の実習校訪問を行い、実習にスムーズに入れるための準備ができる。 数学教育において、具体的な指導内容や方法・評価方法を想定し、学習指導案の作成や模擬授業の実施などを通して実践的な指導力を身につけ、生徒の実態や現代社会に適応した指導の工夫をすることができる。 インターンシップによる学校現場体験を通して、自らの教員としての資質能力を鑑みることができる。 「学校体験活動B」では、教育実習へつながる実践的指導力の基礎を学ぶ。
4年次	第7 セメ スター	【実践と応用】 実習中は常に「玉川教師訓」を意識し、礼儀やマナーを守り、生徒と積極的に交流し、指導教員を含む全ての学校教職員と協働することができる。 また、教育実習で指導されたことや気づいたことはしっかりと記録し、第8セメスターでの「教職実践演習」に活かすことができる。 教員採用候補者選考試験に向けては、自分で弱点としている箇所を徹底的に繰り返し学習し、集中して試験勉強に臨むことができる。 これまでの学修、実習を通して身につけたことを発展させ、生徒に数学的活動を通してその楽しさや数学の良さを実感できる教材準備ができる。
	第8 セメ スター	【総まとめ】 第7セメスターでの「教育実習（中学校・高等学校）」に加え小学校での教育実習を行う「教育実習（副）」を履修する。 これまでの教職課程で学んできたことを「教職実践演習」を通して振り返り、教師として不足している己の力を確認するとともに、課題を解決するための方策を見出し、実践することができる。 これまでの学修、実習を通して身につけたことを発展させ、生徒に数学的活動を通して事象を数理的に考察し表現する力やそれらを活用して考えたり判断する力を指導できるようになる。

様式第7号ウ（教諭）

＜マネジメントサイエンス学科＞（認定課程：小二種免）

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
1年次	第1セメスター	総合的な学習の時間の理論と方法			日本国憲法	数学演習Ⅰ
					健康教育	
					ELF Communication for Teachers	
	第2セメスター	教育方法・技術論	代数学Ⅰ			数学演習Ⅱ
		ICT活用の理論と実践	解析学Ⅰ			
		教職概論				
		学校体験活動A(小学校・中学校)				
2年次	第3セメスター	数学科指導法Ⅰ	解析学Ⅱ	全人教育論		
		教育原理	微分方程式Ⅰ			
		特別支援教育				
		特別活動の理論と方法				
	集中	音楽科指導法			体育	
	第4セメスター	学習・発達論	プログラミングⅠ			
		教育の制度と経営	微分方程式Ⅱ			
		数学科指導法Ⅱ	幾何学Ⅰ			
		道德教育の理論と方法				
	集中	理科指導法				
		図工科指導法				
3年次	第5セメスター	教育相談の理論と方法	代数学Ⅱ			マネジメントサイエンスセミナーA
		数学科指導法Ⅲ	確率統計学Ⅰ			
		教育課程編成論	プログラミングⅡ			
	集中	社会科指導法				
	第6セメスター	数学科指導法Ⅳ	代数学Ⅲ			
		生徒・進路指導の理論と方法	複素解析Ⅰ			
		学校体験活動B(小学校・中学校)	確率統計学Ⅱ			
	集中	国語科指導法				
		外国語(英語)指導法				
4年次	第7セメスター	教育実習(中学校・高等学校)	幾何学Ⅱ			
			ベクトル解析			
			複素解析Ⅱ			
	第8セメスター	教育実習(副)	幾何学Ⅲ			
		教職実践演習	オペレーションズリサーチ			

様式第7号ウ

＜デザインサイエンス学科＞（認定課程：小二種免）

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	第1セメスター	【教職の意義を学ぶ／数学科の基礎を学ぶ】 教職課程とは何かを理解し、教員の仕事・職務内容を確認することができる。小学校・中学校（公立学校）の教員職に就くためには卒業までに何をしなければならないのかを理解し、自分で計画を立てて実践することができる。 大学で学ぶ数学を理解するために必要な数学概念と数学演算の基礎を身につけることができる。
	第2セメスター	【教職の基礎理論を学ぶ／数学科の基礎を学ぶ】 参観実習を通して、教員としての目線からもう一度学校を見つめ直し、教員職が自分に向いているか否かを確認することができる。その後「学校体験活動A」でチーム学校を体験し、学校現場での体験を教職課程の学びにつなげる。 数学の基礎概念の正しい理解に基づく計算力、応用力の修得ならびに高度情報通信社会における数学教育の活用について理解することができる。
2年次	第3セメスター	【教職の基礎理論を学ぶ／数学科の基礎を学ぶ】 数学科の指導に必要な学習指導要領の理解・評価方法・学習指導方法などの基礎的知識を身につけることができる。 数学の基礎概念の正しい理解に基づく計算力、応用力の修得ならびに事象を数理的に考察する力を身につけることができる。 介護等体験事前指導を通して、多様な人への対応力の必要性を理解し、心構えを培うことができる。
	第4セメスター	【指導法の基礎を学ぶ／数学科の基礎を学ぶ】 学習指導案の作成や模擬授業を通じて、単元の要点や学習指導の方法等、数学科の指導に必要な学習指導の技術を修得することができる。 第3セメスターに引き続き、数学の基礎概念の正しい理解に基づく計算力、応用力の修得ならびに事象を数理的に考察する力を身につけることができる。 介護等体験を通して、多様な人への対応を実践し、教師として必要なことは何かを再発見することができる。
3年次	第5セメスター	【教科科目の専門性を養う／数学科の専門性と応用力を養う】 教科外活動に関する理解・基礎的知識を習得し、実践することができる。 学校現場で重要視される数学的活動に対して、十分なスキルを身につけることができる。
	第6セメスター	【教科の専門性と実践力を養う／教職専門科目の専門性と応用力を養う／学校現場における学びを行う】 教育実習事前指導を通して、中学校数学の授業計画や学習指導案、教材研究に至るまでしっかりと教育実習に行くための準備ができる。 事前に数回の実習校訪問を行い、実習にスムーズに入れるための準備ができる。 数学教育において、具体的な指導内容や方法・評価方法を想定し、学習指導案の作成や模擬授業の実施などを通して実践的な指導力を身につけ、生徒の実態や現代社会に適応した指導の工夫をすることができる。「学校体験活動B」では、教育実習へつながる実践的指導力の基礎を学ぶ。 インターンシップによる学校現場体験を通して、自らの教員としての資質能力を鑑みることができる。
4年次	第7セメスター	【実践と応用】 実習中は常に「玉川教師訓」を意識し、礼儀やマナーを守り、生徒と積極的に交流し、指導教員を含む全ての学校教職員と協働することができる。 また、教育実習で指導されたことや気づいたことはしっかりと記録し、第8セメスターでの「教職実践演習」に活かすことができる。 教員採用候補者選考試験に向けては、自分で弱点としている箇所を徹底的に繰り返し学習し、集中して試験勉強に臨むことができる。 これまでの学修、実習を通して身につけたことを発展させ、生徒に数学的活動を通してその楽しさや数学の良さを実感できる教材準備ができる。
	第8セメスター	【総まとめ】 第7セメスターでの「教育実習（中学校・高等学校）」に加え小学校での教育実習を行う「教育実習（副）」を履修する。 これまでの教職課程で学んできたことを「教職実践演習」を通して振り返り、教師として不足している己の力を確認するとともに、課題を解決するための方策を見出し、実践することができる。 これまでの学修、実習を通して身につけたことを発展させ、生徒に数学的活動を通して事象を数理的に考察し表現する力やそれらを活用して考えたり判断する力を指導できるようになる。

様式第7号ウ（教諭）

＜デザインサイエンス学科＞（認定課程：小二種免）

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	第1 セメ スター	教育原理			日本国憲法	デザインサイエンス入門
		総合的な学習の時間の理論と方法			健康教育	
					ELF Communication for Teachers	
	第2 セメ スター	教職概論	代数学Ⅰ			
		教育方法・技術論	解析学Ⅰ			
		ICT活用の理論と実践	プログラミングⅠ			
		学校体験活動A（小学校・中学校）				
2年次	第3 セメ スター 集中	数学科指導法Ⅰ	確率統計学Ⅰ	全人教育論		デジタルシチズンシップ
		学習・発達論	プログラミングⅡ			物理学Ⅰ
		音楽科指導法				
	第4 セメ スター	数学科指導法Ⅱ	幾何学Ⅰ	情報メディアの活用	体育	
		教育の制度と経営	解析学Ⅱ		情報科学入門	
			確率統計学Ⅱ			
	集中	理科指導法				
		図工科指導法				
3年次	第5 セメ スター	数学科指導法Ⅲ	微分方程式Ⅰ			
		特別支援教育	複素解析Ⅰ			
		教育課程編成論	代数学Ⅱ			
		教育相談の理論と方法				
		特別活動の理論と方法				
	集中	社会科指導法				
	第6 セメ スター	数学科指導法Ⅳ	微分方程式Ⅱ			デザインサイエンスセミナーⅠ
		生徒・進路指導の理論と方法	複素解析Ⅱ			デザイン思考
		道徳教育の理論と方法				
		学校体験活動B（小学校・中学校）				
	集中	国語科指導法				
		外国語（英語）指導法				
4年次	第7 セメ スター	教育実習（中学校・高等学校）	幾何学Ⅱ			デザインサイエンスセミナーⅡ
			数値解析プログラミング			工学倫理
	第8 セメ スター	教職実践演習	ビッグデータ解析			
		教育実習（副）				